

委託事業実施内容報告書
令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：特定非営利活動法人フィリピンナガイサ

1. 事業の概要

事業名称	BAYANIHAN～みんなで地域をつくっていこう～
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	1 浜松市における在住フィリピン人の在留資格別状況 ・2019年12月現在、浜松市の外国人住民数は25,624人いる。このうちフィリピン人は4,027人でブラジル人に次ぐ多さである。さらに、2019年6月の法務省データによれば、フィリピン人数が多い都市の5位に浜松市がある。 ・浜松市のフィリピン人は地位等類型資格者(身分系の在留資格者)が全体の90%近くを占めている。しかし、近年は日系人や子どもなど、家族の呼び寄せは減少傾向にある。今後はすでに「生活者として」日本に暮らしている外国人同士、または日本人と結婚して次世代の形成が進むものと思われる。 ・2019年4月には新たな在留資格「特定技能」を新設する改正入管法が施行された。今後は活動類型資格者(就労系の在留資格者)の来日の加速が見込まれる。そのため地域社会の一員として取り込む「生活者としての外国人」とは今後、地位等類型資格者ばかりでなく活動類型資格者をも捉えていく必要がある。 2 当地域の定住フィリピン人の変遷、多様化 ・1990年代、「興行」の在留資格で来日したフィリピンの女性達が日本の男性と結婚するケースが多かった。 ・次に母国に残してきた前夫との間に生まれた子供を呼び寄せるようになり、そのことは現在も続いている。 ・興行での来日とは別の存在として、日系人がいる。家族、親族一同で同じ地区に暮らし、年齢は多岐にわたっている。 ・近年、技能実習生の来日も増えている。さらに、この人たちは近い将来、特定技能へ移行することが見込まれる。 ・在留資格が混在する事態の備えとして、当法人がこれまで地位等類型資格者に対して行ってきた日本語指導、生活相談等の活動は、改めて活動類型資格者にもそのまま移行して活用できるものと考えている。在住歴の長い地位等類型資格者の中にも知見、素養を活かした者も出てきているため、活動類型資格者のリーダーとしての役目が期待ができる。 3 日本語教育の必要性(来日、滞在の背景別に) ①1990～2000年代に来日した日本人男性と結婚した中高年の女性たち 浜松市に暮らすフィリピン人は、成人女性が多い。彼女たちはコミュニケーションスキルが高く、日常生活における会話には不自由していない。今は子育てを終え、職種を変えることを希望しているが、求人においては会話以外の日本語能力を求められ、転職に苦労している。日本語能力が入門というわけでもない彼女たちが次のフィールドへ進むための、架け橋となるような教室が本地域には少ない。 ②学齢期を超えた若者の存在 若年層は特にフィリピンコミュニティの中に埋没しやすい存在であると捉えており、彼らに特化した場の提供と、その中でカリキュラムを組むことが求められる。彼らは定住する傾向が強く、日本社会を支える重要な基礎になっているからである。そのため、「体験学習の機会の提供」や「初期適応支援」を行い、日本社会への入り口に背中を押すような役割の教室の存在が必要である。 ③日系フィリピン人の存在 日系フィリピン人は日本語能力が高い者をリーダー的存在とし、頼って生活している傾向がある。非常に内向的でもあるが、「仲間とともに学びたい」という希望は強い。こうしたモチベーションを捉えて学習の機会に結び付けることが、彼らにとって安定した家族形成につながるものとする。よって、学習内容と機会をしっかりと捉えていかなければならない。 ④活動類型資格者への日本語教育と地位等類型資格者との関係性 活動類型資格者については、企業を通じて関わる機会が増えていくことが予想される。これまで本事業において培ってきた「生活上の行為に結びつく日本語教育」は団体の持ち味であり、いずれ、特定技能の登録支援機関に求められる義務的・任意的支援へも移行できる体制を整えておきたい。 4 本事業での経験と特色を生かした人材育成 我々が考えている「人材育成」の人材の柱は2本ある。一つは、通訳者としてのバイリンガル人材である。この人たちの育成は、現場ごとに対応の変化が求められ、必要な能力も必然と変わってくるため、より専門的に育成できるよう公的職業訓練という形へ移行した(「業務の心構え」や「自己研鑽の手法」については引き続き、本事業で取り扱う)。もう一つ捉えている人材の柱は、地域の一員として外国人を受け入れる日本社会側である。近年、「外国人は労働者」という認識が色濃い世論であるが、そのすべての外国人は「生活者としての外国人」であることを踏まえれば、日本語教育が必要な場合は日本語教室の中に留まることはあり得ない。彼らが勤務する企業、利用する店舗、子どもたちが通う学校、家族で利用する様々な公共・民間施設など、日本語教育の広がりは、意思疎通の手段としてますます重要なものになっていくはずである。 5 時代に即した団体のあり方 昨年4月の入管法の施行により「特定技能」の受け入れを後押しできるものと思っていたが、実際には企業が技能実習と特定技能をうまく組み合わせ、一人の人材を最長10年採用するという風潮になってしまった。こうして滞在が長期化しているにもかかわらず、技能実習生は地域との接点が希薄であり、技能実習制度に収まっているから目に見えない、上がってこない問題点をニュースなどで耳にすることが増えている。この状況で憂慮すべきは昨今の自然災害への備えと、その準備不足についてである。地震、あるいは大雨・洪水災害の際に避難指示が出されることが頻発しているが、「避難場所を知らない、どうしたらいいかわからない」と言ったことが挙げられる。実習先での労働災害については重点的に指導を受ける一方で、実習生の生活の場面ではあまり積極的に指導されていないという点は大きな社会問題ではないだろうか。このことから、彼らに対して地域社会と連携した防災訓練の実施などが必要だと考える。当法人はこれまで外国人の自助努力団体として地位等類型資格者(身分・地位に基づく在留資格者)の声を拾い上げることを得意としてきたが今後は在留資格の枠を超えて、また、日本人と外国人という垣根も超えて、問題点や困りごとが社会に埋没されないよう、つぶさに見ていくことを使命としている。
本事業の対象とする空白地域の状況(空白地域を含む場合のみ記入)	

事業内容の概要 (課題をどのように解決 するのか分かるよう記 入)	●日本語教育の実施(①青年のためのバヤニハン日本語教室／②大人のためのバヤニハン日本語教室) ・来日して間もなく、日本語能力が入門・初級の若者が学ぶ場を提供した。これにより社会の中に埋没しないようにした。(①) ・課題やワーク活動を取り入れた。これにより、実生活の中でできることを増やした。 ・サバイバルで身に着けた日本語を整理し、レベルを上げるようにした。これにより日本語でできる選択肢を広げた。(②) ・自己学習を推進した。これにより、実生活にも役立てられる力を醸成した。(①②) ●日本語教育を行う人材の養成、研修の実施(人材育成)～外国人を取り巻く環境を知る～ ・今後、外国人と接する場面がますます増えていくことが見込まれる。そのため、地域の多様なニーズに応じる地域日本語教育コーディネーターの存在はますます重要になっていく。こうした業務にあたる者へ重点的に参加を呼び掛け、定住外国人の来日理由、生活事情などを把握する力や地域の機関・住民をマッチングする力を付けた。 - なお、講座内容は外国人を取り巻く環境の周知をすることを軸とし、今年度は「やさしい日本語の普及」に特に力を入れた内容で実施した。 ●日本語教育のための学習教材の作成(教材作成) ・サバイバルや場面シラバスで日本語を学習してきた人たちが、さらに学べるよう文法項目を入れた。 ・教材は当法人が管理する日本語学習のためのFacebookグループに動画配信した。 ●三つの取組の関連性 「日本語教育の実施(①青年のためのバヤニハン日本語教室／②大人のためのバヤニハン日本語教室)」をもって、フィリピン人をはじめとする定住外国人への関わりに裾野を広げ、これら学習者を「人材育成」につなげた。さらに人材育成の実施には定住外国人を取り巻く環境を日本社会へ周知する役目も担う。「教材作成」は「日本語教室」の学習者の声を反映したものを作成し、広く全国の学習者に活用してもらえるようにした。
	事業の実施期間 令和2年5月～令和3年3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	櫻井敬子	浜松市教育委員会学校教育指導課主幹 教育総合支援センター 外国人グループ 長
2	鈴木三男	浜松市企画調整部 国際課 課長
3	鈴木エバ	特定非営利活動法人フィリピンナガイサ 静岡県立浜名高等学校定時 制・浜北高等学校定時制 タガログ語支援 員 外国人児童生徒就学サポ ーター
4	清ルミ	常葉大学 外国語学部 教授
5	高貝亮	浜松総合法律事務所 弁護士
6	前嶋康寿	静岡県経済産業部(産業人材確保・育成 担当)理事
7	村松辰芳	浜北商工会会長
8	村松正利	村松正利行政書士事務所 行政書士
9	湊健一郎	税理士法人黎明祖父江会計事務所 執行役 員、 湊健一郎社会保険労務士事務所 代表
10	吉開章	株)電通 新聞局日本開発室 エリアソ リューション部シニア・マネージャーThe日 本語Learning Community主宰



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和2年7月7日 (火) 15:00～17:00	2時間	イトリエ／zoom	湊健一郎、前嶋康寿、村松辰芳、清ルミ、高貝亮、村松正利、吉開章、櫻井敬子、古橋広樹(鈴木三男代理) 松本義一、古橋洋美、半場和美	業務計画の検討
2	令和2年11月2日 (月) 15:00～17:00	2時間	浜北商工会／ zoom	湊健一郎、前嶋康寿、村松辰芳、高貝亮、村松正利、吉開章、櫻井敬子、古橋広樹(鈴木三男代理)、鈴木エバ、古橋洋美、半場和美	業務計画の中間報告
3	令和3年3月1日 (月) 15:00～17:00	2時間	浜北商工会／ zoom	前嶋康寿、村松辰芳、清ルミ、村松正利、高貝亮、村松正利、吉開章、櫻井敬子、鈴木三男、古橋洋美、半場和美	年度末の報告

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<日本語教室の学習者募集の広報協力先> ・近隣の国際交流協会、県西部の市町・国際課、浜松市教育委員会、近隣のNPO法人団体、日本語教育支援団体、地域の企業、教会、フィリピン雑貨店・レストラン等。 ・クラス 終了後も日本語学習を継続してもらうために、ニーズにあった地域のほかの日本語教室もあわせて紹介した。 <日本語教室の体験学習の協力先> (公財)浜松国際交流協会、ハローワーク浜松、浜松市防災学習センター、浜松市南部協働センター、地元企業など。 <人材育成の参加者募集の広報協力先> 静岡県(暮らし環境部・経済産業部)、浜松市(国際課・市民協働課・UD男女共同参画課・広聴広報課)、近隣の国際交流協会(浜松、磐田、湖西、袋井、掛川、静岡県、静岡市など)、浜松テクノカレッジ、ハローワーク浜松、市内協働センター、近隣のNPO法人、日本語教育支援団体、企業、これまで協力してくれたボランティアなど。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	半場和美 …全取組の整合性を図りながら、内部と外部(文化庁、行政、地域の関係機関や住民、本事業担当者ら)とを調整し、地域の連携を促進する。円滑な事業遂行のため、全体の指揮を執った。 松本義一 …主に「青年のためのバヤニハン日本語教室」のコーディネート、指導を担当した。 また、当該地域の行政、学校関係者、支援者たちを集めた人材育成講座では「フィリピン人の特性を考慮したサポートについて」助言したり、発表した。 鈴木エバ …主に「青年クラス」で指導補助を務めた。また、バヤニハン日本語教室で代講も務めた。運営委員会では、フィリピン人の委員として意見を述べた。
----------	---

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称: バヤニハン日本語教室】										
取組の目標		① 青年のためのバヤニハン日本語教室 滞在年数の浅いフィリピン人の若者が実生活で困らないような日本語学習の機会を提供する。「体験型の日本語教室」と「自己学習のHow toについて教授する」ことで、日々の生活の中で自律学習する習慣をつけてもらうこと。 ② 大人のためのバヤニハン日本語教室 滞在年数の長い中高年のフィリピン人が、地域社会で活躍できるような日本語学習の機会を提供する。簡単な読解や読み書きのレベルを上げるような学びを取り入れることで、日常生活の中で身に付けてきた会話に重点を置いた日本語初級から、初級後半以上を目指すこと。								
内 容		① 青年のためのバヤニハン日本語教室 ・若者が体験を通して日本語を使う機会を増やす計画であったが、コロナ禍に配慮しフィールドワークの多くを中止した。代わりにオンラインでできるサービス体験を活動に取り入れた。このことは自律学習にもつながった。 ② 大人のためのバヤニハン日本語教室 ・生活に必要なテーマ、特に自己紹介、病気、防災、119番通報練習はトピックとして取り上げた。 ・文法整理として、おもに動詞の活用を折に触れて学んだ。 ・行政が発行する外国人向けの資料「やさしい日本語版」を教材として活用した。 ※5月はコロナウィルス感染拡大防止、予防のため生徒をグループ分けし、オンラインにて実施した。								
実施期間	令和2年5月16 日～令和3年3月13日				授業時間・コマ数		①オンライン(1時間／回)×20時間＝20時間 ②青年クラス(2時間／回)×30回＝60時間 ③大人クラス(2時間／回)×19回＝38時間 合計118時間			
対象者	定住フィリピン人				参加者		総数 40人 (受講者 35 人, 指導者・支援者等 5 人)			
カリキュラム案活用	カリキュラム案を参考に、学習者やバイリンガルスタッフの意見を聞いて内容に反映した。									
使用した教材・リソース	オリジナル教材、出入国在留管理庁「生活・仕事ガイドブック(やさしい日本語版)」、静岡県地震防災ガイドブック(やさしい日本語版)、静岡県避難生活ガイドブック(やさしい日本語版)、HICE防災マップ、「新型コロナウィルスに関する知事メッセージ・やさしい日本語版(出典:東京動画)」、広報はままつ「新しい生活様式の実践」									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
									35	1
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
オンライン1	令和2年5月16日(土) 13:00～17:00	4 (1時間/回)× 4回分	zoom	24	オンライン会議システムzoomを使ってみましょう	zoomのホワイトボードに生活漢字を書いた		—	指導補助者(中村グレイス・鈴木エバ、アバスマリ、松本義一、半場和美) ※(1時間×2グループ/回)×4回…指導補助者の支出で1グループにつき1～2名ずつ配置した	
オンライン2	令和2年5月23日(土) 13:00～17:00	4 (1時間/回)× 4回分	zoom	24	オンライン会議システムzoomを使ってみましょう	静岡県西部地域の地名を覚えた		—	指導補助者(中村グレイス・鈴木エバ、アバスマリ、松本義一、半場和美) ※(1時間×2グループ/回)×4回…指導補助者の支出で1グループにつき1～2名ずつ配置した	
オンライン3	令和2年5月30日(土) 13:30～15:30	2 (1時間/回)× 2回分	zoom	24	オンライン会議システムzoomを使ってみましょう	数字の読み方		—	指導補助者(中村グレイス・鈴木エバ、アバスマリ、松本義一、半場和美) ※(1時間×2グループ/回)×4回…指導補助者の支出で1グループにつき1～2名ずつ配置した	
青年1	令和2年6月6日 13:30～15:30	2	南部協働センター	5	6月トピック『公共交通機関を使ってみよう』	①日本の公共交通機関 ②浜松市の公共交通機関		松本義一	古橋洋美(指導補助)	
青年2	令和2年6月13日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	5	遠鉄バスでHICEに行く方法を学ぼう	①浜松市の地理と主要施設の場所 ②公共交通機関を利用してHICEまで行く方法		松本義一	鈴木エバ(指導補助)	
青年3	令和2年6月27日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	5	体験学習「バスに乗ってHICEに行こう」	①公共交通機関で使えるICカードの申し込み手続き(実践) ②公共交通機関を利用して目的地を目指す。		松本義一	鈴木エバ(指導補助)	
青年4	令和2年7月4日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	6	体験学習の振り返り	①体験学習の振り返り ・単語の確認・共有 ・疑問に思ったことを共有・解決		松本義一	鈴木エバ(指導補助)	
青年5	令和2年7月11日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	3	7月トピック『浜松の産業を知ろう』	①浜松市で有名な産業 ②「ものづくり」とは何か?		松本義一	鈴木エバ(指導補助)	
青年6	令和2年7月18日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	4	ものづくりの言葉	①ものづくりの道具に関する言葉 ②形・色を表す言葉 ③動作を表す言葉(切る、押す、練る、作るetc)		松本義一	鈴木エバ(指導補助)	

青年7	令和2年7月25日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	4	ものづくり体験 ・前回学んだ言葉を使って、粘土で物を作る	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年8	令和2年8月1日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	5	8月トピック『日本語 学習について考え よう』	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年9	令和2年8月8日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	5	浜松市内の日本語 教室の紹介	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年10	令和2年8月22日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	7	自律学習について 考えよう	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年11	令和2年8月29日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	6	学習計画の発表	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年12	令和2年9月5日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	6	9月トピック『仕事に ついて考えよう』	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年13	令和2年9月12日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	5	進路①進学	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年14	令和2年9月19日(土) 13:30~15:30 2年	2	南部協働セ ンター	5	進路②就職	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年15	令和2年9月26日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	5	仕事について考えよ う	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年16	令和2年10月3日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	5	10月トピック『防災 について知ろう』	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年17	令和2年10月17日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	5	地震について学ぼう	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年18	令和2年10月31日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	5	洪水について学ぼう	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年19	令和2年11月7日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	3	11月トピック『病院の 利用方法について知 ろう』	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年20	令和2年11月14日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	3	体の部位の言葉を知 る	松本義一	—
青年21	令和3年1月9日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	3	1月トピック『公共施 設を利用しよう』	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年22	令和3年1月16日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	3	利用方法を学ぼう	松本義一	—
青年23	令和3年1月23日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	3	体験学習「浜松市立 南図書館」	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年24	令和3年1月30日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	3	体験学習の振り返り ・単語の確認・共有 ・疑問に思ったことを共有・解決	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年25	令和3年2月6日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	3	2月トピック『日本の 地理を知ろう』	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年26	令和3年2月13日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	3	静岡県の地理	松本義一	鈴木エバ(指導補助)

青年27	令和3年2月20日(土) 13:30～15:30	2	福祉交流センター	3	静岡県の観光	①主要観光名所 ②浜松市内の観光名所	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年28	令和3年2月27日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	3	行ってみたい場所を調べよう。	①日本国内で行ってみたい場所を調べて、発表	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年29	令和3年3月6日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	3	3月トピック『生活に関するお金について知ろう』	①日本での生活で必要となるお金 ・税金 ・社会保険料	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
青年30	令和3年3月13日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	3	お得な買い物方法	①新しい決済方法 ・QRコード決済 ・ポイントカード	松本義一	鈴木エバ(指導補助)
大人1	令和2年9月5日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	5	第一印象の良い挨拶ができる	自己紹介、初めてのあいさつ、ひらがな・カタカナ	半場和美	
大人2	令和2年9月12日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	4	家族について紹介できる	家族の呼称、家族紹介	半場和美	
大人3	令和2年9月19日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	5	症状が言える	病気・症状	半場和美	
大人4	令和2年9月26日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	6	総合病院の仕組みを覚える	病院(～科・総合病院の受診の仕方)	半場和美	
大人5	令和2年10月3日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	6	サバイバルで覚えた日本語のルールを知る	動詞のグループ分け	半場和美	
大人6	令和2年10月17日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	7	サバイバルで覚えた日本語のルールを知る	動詞ナイ形…ナイ形を使って協働センターのトイレポスター制作	半場和美	
大人7	令和2年10月31日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	8	サバイバルで覚えた日本語のルールを知る	動詞マス形…(「生活・仕事ガイドブック(やさしい日本語版)」(法務省)の「第二章市役所・区役所」のページを使って)	半場和美	
大人8	令和2年11月7日(土) 13:30～15:31	2	南部協働センター	5	サバイバルで覚えた日本語のルールを知る	動詞辞書形…「新型コロナウイルスに関する知事メッセージ・やさしい日本語版(出典:東京動画)」を使って読解問題に挑戦	半場和美	
大人9	令和2年11月14日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	8	まとめ	大人1回目～8回目までの復習	鈴木エバ	—
大人10	令和3年1月9日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	5	日本の自然災害の知識、理解を深める	静岡県地震防災ガイドブック(やさしい日本語版)「震度、揺れの大きさ」を使って漢字や語彙、表現の確認	半場和美	土戸景子
大人11	令和3年1月16日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	6	日本の自然災害の知識、理解を深める	静岡県地震防災ガイドブック(やさしい日本語版)「覚えてください、地震の時使います」を使って、漢字や語彙、表現の確認	半場和美	土戸景子
大人12	令和3年1月23日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	7	日本の自然災害の知識、理解を深める	動詞テ形①…静岡県地震防災ガイドブック(やさしい日本語版)「覚えてください、災害の時使います」より自然災害の種類	半場和美	土戸景子
大人13	令和3年1月30日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	5	日本の自然災害の知識、理解を深める	動詞テ形②…静岡県地震防災ガイドブック(やさしい日本語版)「覚えてください、災害の時使います」より自然災害の種類	半場和美	土戸景子
大人14	令和3年2月6日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	8	日本の自然災害の知識、理解を深める	静岡県防災アプリの使い方と、HICE防災マップの見方	半場和美	土戸景子 静岡県多文化共生室・西部地域危機管理局 HICEキクヤマ
大人15	令和3年2月13日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	5	日本の自然災害の知識、理解を深める	災害時の「情報」に関する言葉	半場和美	土戸景子
大人16	令和3年2月20日(土) 13:30～15:30	2	福祉交流センター	5	119番に電話をかける	119番通報練習	半場和美	土戸景子

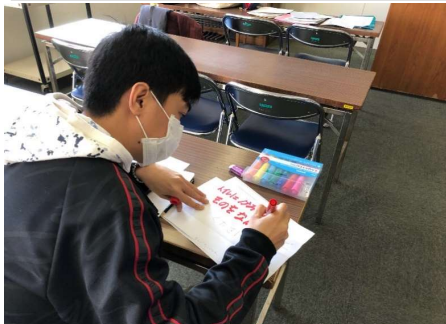
大人17	令和3年2月27日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	5	日本の自然災害 の知識、理解を 深める	非常持ち出し品の名称を覚える	半場和美	土戸景子
大人18	令和3年3月6日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	9	日本の自然災害 の知識、理解を 深める	「静岡県外国人住民のための避難生活ガイ ドブック(やさしい日本語版)」を使って、避難 所で想定される日本人とのコミュニケーショ ンで使う言葉	半場和美	土戸景子
大人19	令和3年3月13日(土) 13:30~15:30	2	南部協働セ ンター	11	日本の自然災害 の知識、理解を 深める	まとめ「防災新聞」制作…県や市が発行する防 災ガイドブックに書いていない内容で授業で取り 上げたことをか責まとめておく	半場和美	土戸景子

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【大人:第5回 令和2年10月17日】

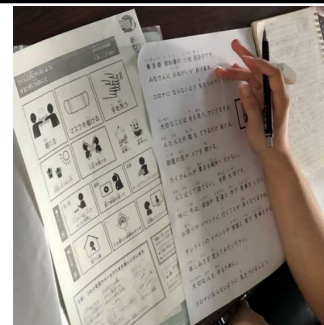
教材として出入国在留管理庁監修「生活・仕事ガイドブック(やさしい日本語版)」p.89に挙げられている文章を「ナイ形」を使って、「～ないでください」の言い換えを考えた。その後、会場の南部協働センターの施設でもしてはいけないと思うことについて話し、トイレの使用についてモラルやマナーをポスターにして書いた。日本社会において注意を受ける側に押し込まれるのではなく、注意喚起を促す側になって活動した。仕上がったポスターは協働センター長にお見せし、トイレに実際に掲示する許可をいただいた。年度をまだいまだ今もお貼ってある。また、協働センターからも好評で、「職員がパソコンで打ち出すよりも施設利用者が作成したもののほうが温かみがあってよい。これからもどんどん、いろいろなものを作成して欲しい」という励ましのお言葉をいただいた。会場ともよい関係性が築けており、ありがたい。



○取組事例②

【大人:第8回 令和2年11月7日】

今年度の活動は、「コロナウィルス」の心配が切り離せなかった。そんな中、秋に東京都知事、小池百合子氏が発表した「やさしい日本語版」の啓発動画は要点がまとめられており、大変聞き取りやすいものだった。すぐにスクリプトを作成し、内容にまつわる読解問題を作成した。動画を見て内容を理解し、その後、スクリプトと問題文を読み、文章に合うものを、「浜松市の新しい生活様式(やさしい日本語×ピクトグラム版)」の中から選んでもらった。自治体によって言い回しは違うが、コロナウィルス予防については全国一律に啓発内容は同様である。よって「ある言葉」で示されたものを「別の言い回し」で書かれたもの、「ピクトグラム」に置き変わったもの、「すべて同じもの」という理解ができればいいと考えた。結果、正解率がよかった。「生活者としての外国人」は文字が読めて、音に置き換わると内容の理解は比較的内容であることの証明にもなった。彼ら自身、読み書きへの苦手意識は強い上、社会からも「読み書きができない人＝日本語初級」と捉えがちであるが、新たな支援のあり方を探ることができた活動事例となった。



(2) 目標の達成状況・成果

防災のテーマでは授業後、学習者に「今日、私は～についてわかりました(覚えました、できました)」という一文を書き留め、自己評価をしてもらった。漢字を取り上げた日は評判がよく、多くの学習者が(例えば)「今日私は、海という漢字を覚えました」などと書いてくれた。また、「日本では地震が多いので、テレビ・ニュース・ラジオをよく見るようにということを学びました」といったことから、本人にとって学びとなった内容は日本語のみならず、生活に必要な情報・行動にまで及んだことが見て取れた。こうした自己評価の数々は、このクラスが存在意義にも直結することであり、成果の一つと言える。

(3) 今後の改善点について

これまでは「生活者としての外国人」が生活情報を得るための日本語力が乏しいとのことで、滞在年数の長い同胞を頼るということがあった。そのため、当法人のフィリピン人スタッフが「バイリンガル指導者」として活躍していた。ところが近年、その役割に次のフェーズが来ていることを活動の中で感じる。理由は、同胞間においても滞在年数の長い人が増えており、指導者と差異がなくなっていること、そして核となる人材の高齢化が挙げられる。またわからないことはスマートフォンやSNSの普及により、誰もが容易に調べたり、聞くことができること。さらに、「同胞」と言っても来日理由や背景、地域がまったく違う人たちが混在し、多様化しているのも、同じ国にルーツを持ちながらも互いの特性を知らないことや関心が薄いといったこともある。さらに、送り出し国(母国)と受入国側(日本)の社会的事情が彼らの移動に大きく影響を与えていることから、当法人への社会的期待は「客観的かつ俯瞰的に状況把握し、定住外国人と日本社会をマッチングする力」へと変わってきている。そのため、会の運営に関わる者は「誰かの助けになりたい」という思いだけでは立ち行かないことも多くなっている現状がある。日本語教育についても同様で、場面シラバスでその場を切り抜けるようなストラテジーを指導するだけでは、滞在年数の長い学習者を満足させることができなくなっている。また、このような人たちに次のメニューを提示する段階に入っているいっぽうで、日本社会の側にも彼らの求める日本語教育とは何かを代弁し、働きかけをしなければならない。そのため今後、「生活者としての外国人」と日本社会をマッチングするような日本語教室の中身とそれを牽引する人材像について、当事者と有識者を交えて検討していく。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称： 人材育成講座～定住外国人を取り巻く環境を知る～ 】											
取組の目標		・地球規模で見た人口動態や経済状況に端を発し、起きているような社会の課題や実情を、客観的に捉えられる日本語教育人材を養成する。 ・地域日本語教育コーディネーターや日本語教師の質の向上と、日本語学習支援者の裾野を広げることを目的とし、地域社会の中に文化的多様性を理解し尊重する態度が波及することを目指す。 (なお、参加者の国籍は問わないものとする)									
内 容		日本語教育に従事する者(または、これから目指す者)が地域の実情に沿った支援ができるような内容とした。そのため、「定住外国人を取り巻く環境を知る」ような内容を様々な角度から学び、日本語教育のカリキュラム作成に反映できるように努めた。									
実施期間		令和2年6月27日～令和3年3月13日				授業時間・コマ数		1回2時間×15回＝30時間			
対象者		日本語教育関係者(または目指す者) ただし、行政職員、教育関係者、定住外国人の支援者、企業の人事担当者、地域住民などにも公開する				参加者		総数345 人 (受講者326人、 指導者・支援者等 19 人)			
カリキュラム案活用		カリキュラム案のうち、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について」の内容を理解したうえで、テーマを厳選した。									
使用した教材・リソース		講師オリジナル(有田氏以外)／文化庁日本語学習サイト「つながるひろがるにほんごでのくらし」(有田様)／NICT(国立研究開発法人情報通信研究機構)ボイスラ(萩元様)									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
		3		5	2				3	19	292
		インド国(1人)、フィンランド国(1人)									
養成・研修の実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和2年6月27日(土) 10:00～12:00	2	zoom	30	外国人を取り巻く労働問題	・「生活者としての外国人」に多い相談事例を聞いた ・コロナ禍における外国人の相談事例を聞いた ・司法現場で通訳者に求められるスキルを聞いた		高貝亮	半場和美(補助者)		
2	令和2年7月23日(土) 10:00～12:00	2	zoom	20	オンライン支援「日本語教育の今後を考える」	・オンライン支援の心構えを学んだ ・具体的なオンライン支援の事例を聞いた		井上くみ子	半場和美(補助者)		
3	令和2年8月8日(土) 10:00～12:00	2	zoom	21	外国にルーツのある子どもたちとその教育環境(浜松市の場合)	・進路指導にあたるうえで指導者が知っておくべきことを考えた ・来日以降、子どもたちのおかれている状況を伝えた		松本義一	—		
4	令和2年8月22日 10:00～12:00	2	zoom	91	「新時代の言語教育」小学校の外国語教育と機械翻訳技術の融合	・機械翻訳機を用いた学校現場の様子を聞いた ・機械翻訳を使った子どもたちの学びの事例を聞いた		成田潤也	松本義一(補助者)		
5	令和2年8月29日(土) 10:00～12:00	2	zoom	84	すぐに使える!やさしい日本語×多言語音声翻訳でグローバルコミュニケーション	・社会教育としての日本語教育活動とは何かを考えた ・社会教育にまつわる知識について聞いた ・多言語音声翻訳とやさしい日本語の関係を学んだ ・多言語音声翻訳を使った、地域の人々の学びの事例を聞いた		萩元直樹	松本義一(補助者)		
6	令和2年10月15日(土) 14:00～16:00	2	zoom	25	日系フィリピン人と浜松のつながり	・フィリピンの教育現場の指導者の声を聞いた ・フィリピン現地の学校や教育事情を聞いた		足立ネルマ	松本義一(補助者)		
7	令和2年10月24日(土) 10:00～12:00	2	zoom	47	今、地域に求められている日本語教育「浜松市の多文化共生施策から考える」	・浜松市の多文化共生施策について聞いた ・国の施策を知り、「生活者としての外国人」に對日本語教育を考えた		松井孝浩 古橋広樹	松本義一・半場和美(補助者)		
8	令和2年11月21日(土) 14:00～16:00	2	zoom	31	調査の手法から考える「生活者としての外国人」のニーズを基盤とした地域日本語教育	・社会調査とは何かを聞いた ・名古屋区栄の調査事例を聞いた		高畑幸	半場和美(補助者)		
9	令和2年12月19日(土) 13:30～15:30	2	zoom	21	「多文化共生社会」の防災と減災	外国人が増加している地域の防災講座の事例や想定策を聞いた		菊池哲佳 キクヤマリサ	松本義一(補助者)		
10	令和3年2月11日(金) 13:30～15:30	2	南部協働センター	18	ブラッシュアップ!通訳・翻訳のスキルと心がけ①	通訳士が必要な現場はどういったところか、なぜ必要か、そのような仕事に就くにはどのようなプロセスを経るのかを学んだ		高畑幸	半場和美(補助者)		

11	令和3年2月14日(土) 10:00～12:00	2	zoom	90	多文化共生時代を縦と横につなぐ 学校教育×社会教育「ことばの教育の今と未来」	社会教育と学校教育の連携から、グローバル時代の地域日本語教育を考える	吉開章 成田潤也 萩元直樹	アバスマリ(発表者) 半場和美(補助者)
12	令和3年2月23日(水) 13:30～15:30	2	南部協働センター	18	ブラッシュアップ！通訳・翻訳のスキルと心がけ②	通訳士が必要な現場はどういったところか、なぜ必要か、そのような仕事に就くにはどのようなプロセスを経るのかを学んだ	高畑幸	半場和美(補助者)
13	令和3年2月27日(土) 13:30～15:30	2	zoom	12	外国人の「生活」と「就労」	・在留資格の種類とその概要を詳細に聞いた。 ・NPO法人としてのミッションや活動における苦悩など、ざっくばらんに参加者と共有した。	古橋洋美 松本義一	半場和美(補助者)
14	令和3年3月6日(土) 10:00～12:00	2	zoom	29	私たちといっしょに、文化庁日本語学習サイト「つながるひろがるにほんごでのくらし」をつなひろを使う工夫を学んでみませんか」	文化庁日本語学習サイト「つながるひろがるにほんごでのくらし」を使って、学習者向けの〇×問題を作成	有田玲子	半場和美(補助者)
15	令和3年3月13日(土) 10:00～12:00	2	zoom	29	私たちといっしょに、文化庁日本語学習サイト「つながるひろがるにほんごでのくらし」をつなひろを使う工夫を学んでみませんか」	文化庁日本語学習サイト「つながるひろがるにほんごでのくらし」を参考に、学習者向けのスク립トを作成	有田玲子	半場和美(補助者)

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第7回 令和2年10月24日】今、地域に求められている日本語教育「浜松市の多文化共生施策から考える」

(第一部：浜松市国際課、古橋様)

浜松市の概況、在留外国人の状況と取り巻く環境、多文化共生の取組、浜松市多文化共生都市ビジョン、地域日本語教育の体制づくり推進事業、国内外の多文化共生都市との連携、インターカルチュラルシティ、多文化共生都市・浜松市の世界発信、コロナ禍における取組などをお話いただいた。オンライン開催だったため、浜松市のみならず全国のご参加者とともに、地方行政と日本語教育の連携の意義を考えることができた。ご参加者に協力いただいたアンケート結果からも、浜松市の多文化共生施策への高い評価、「行政への働きかけ方の参考になった」という回答を複数得た。

(第二部：文化庁国際課、松井様)

日本語教育を取り巻くさまざまな施策や制度をお話いただき、「生活者としての外国人」に対する日本語教育について、どのような枠組みの中で活動しているのかがわかった。「生活者としての外国人」が自身のニーズや置かれている状況に応じた日本語教育を受ける機会を得られるようにするいっぽうで、日本語教育についての国民の理解と関心の増進という役目も期待されていることを知った。さらに、「生活者としての外国人」が何を学ぶべきか、その目的は何か？ということを外しては考えられないことも添えられた。ご講義を受け、折を見て次回は「地域の日本語教室でしか学べないこと」を参加者とともに深堀して考える機会を持ちたい。

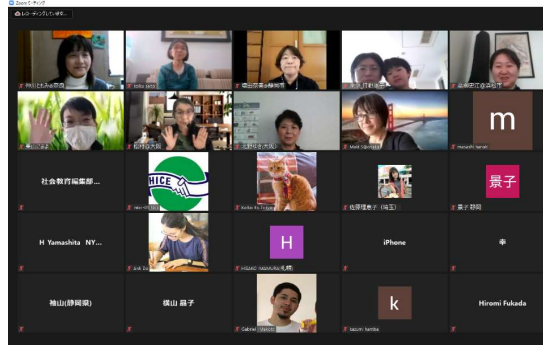


【第11回 令和3年2月14日】多文化共生時代を縦と横につなぐ 学校教育×社会教育「ことばの教育の今と未来」

吉開氏が主宰する「やさしい日本語ツーリズム研究会」の縁でつながったメンバーが「学社連携」への気づきについて対談した。萩元氏からは、「社会教育とは学で社会をデザインすることで自主性、主体性、相互学習を基本としている」というお話をいただいた。また、地域において住民同士が対等な関係を築くには、「やさしい日本語」に観光おもてなしを掛け合わせることで、誰もが街の担い手になり得るということも添えていただいた。このことから、ダイバーシティ&インクルージョンに必要な考え方はワークショップや共同経験を通じた学び合い、学びほぐしであり、私たちはともに街をつくるパートナーであるという意識変革が必要だとわかった。

いっぽう、成田氏からは小学校で機械翻訳を使って、つながる感覚を体験すると、子どもたちは母語への気づき生まれ、外国語話者とのコミュニケーションへの抵抗感が低減されたという研究成果を発表していただいた。この研究では、母語話者同志では気づかない学びがあり、子どもたちの学習意欲が促進されたとのことだった。機械翻訳はあって当たり前時代のなかで、生産的に使える力を子どもたちを養成し、社会に輩出していく大切さが話された。当法人からは、アバスマリさんが自信の体験を通して「多文化共生社会」に向けた要望と期待を話した。今でも言いたいことが言葉としてうまく出てこないときもゼロではないが、リフレーミングすると「自分にはまだ伸びしろがある」と考えるとやる気が湧いてくるというものだった。彼女の努力に対して、参加者からは応援の声が多く聞かれた。また、彼女自身は、自分の経験を後輩たちに伝えていきたいと考え、当法人でスタッフとして活動していることを明言してくれた。日本人に対して思うこととしては、普段から外国人と話す機会があれば特別に意識しなくなるのではないかと思うとのことだった。

本講座のまとめとして吉開氏から、「本講座で影響を受けて自ら行動する人が出てくると、さざ波の繰り返しでビッグウェーブになって返ってくる。これだけの人数が浜松を中心に集まったというパワーがある。この勢いでより良い社会を築いていければよい」と締めくくっていただいた。



(2) 目標の達成状況・成果

計画時には想定していなかったが新年度早々、コロナ禍に遭い、ほとんどの講座をオンラインでの実施に切り替えた。これにより、全国はもとより世界のいくつかの国からもご参加いただけた(アメリカ、ベトナム、マレーシア、ブラジル)。また、対面では会うことが難しかった人もオンラインなら参加できるという人が多くいた。そのため懐かしい支援者たちにも再会できた。最終的にたくさんの方々に講座に関心を持っていただけたことは2020年度の大きな成果と言える。今年度は多くの人とご縁を頂戴したので、次年度はこの方々とより一層、共生社会への実現に向けた理解と地域日本語教育の存在意義について学びを深められるようなテーマを厳選していきたい。今年度は通しでの参加を呼びかけるほか、テーマごとに改めて広く参加者を募ったが、途中からこの講座の存在に気づいてリピーターとなる方も多かった。さらに一度参加された方がそれ以降は職場の同僚を伴って申込みというケースも複数あった(市内外の役所や国際交流協会の職員・教職員、介護職員など)。その他、アンケートを別添する。

(3) 今後の改善点について

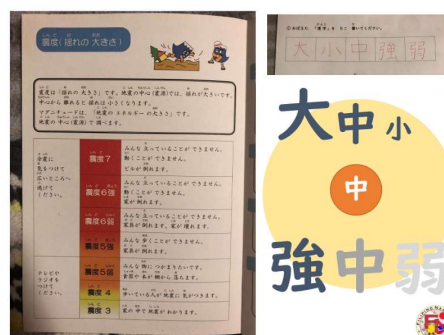
外国人の受入れについて激動の時代にあって、これまで準備してきたことに加えて突然、コロナ禍に遭った。このことから、これまでは「地域社会の人々のつながり」を考える日本語教育であったが、さらに「安心・安全に繋がり考える」という課題が加わったと理解している。しかし、この「安心・安全に」の理解は国民性によらず、世代間や個人ごとによってとらえ方が微妙に違う。ここに難しさを感じる一方、地域日本語教育で培われたファシリテーション力は、このような局面で発揮できるように思う。よって、これからの地域日本語に従事する者はより一層の、「柔軟に対応する力」「難しい局面においても工夫し、乗り越える粘り強さ」を求めている。当法人も、これまで本事業で大切にしてきた「地域住民同士の交流」を、コロナの状況下でどのように図っていくか、いまだ模索段階にある。また、「安心・安全に」を保障するための情報提供のあり方も引き続き、活動を通して声を拾い上げていくという責務がある。次年度はこれらの点について取組の中でしっかり考え、活動に結び付けるとともに、同じような活動をしている人たちとともに共有し、地域日本語教育の存在意義を学び合う場を設けたい。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：BAYANIHAN】			
取組の目標	・地域に暮らすフィリピン人が実生活で困らないような教材を作成する。 ・定住フィリピン人の自己学習をサポートする。 ・来日後、自身の経験とサバイバルで身に着けた日本語を整理し、学び直しができる教材として増補する。		
内 容	・滞在年数の長い定住外国人が、サバイバルで感覚的に身につけていた日本語の文法を整理できるようにした ・「生活者としての外国人」向けに出された「やさしい日本語」版の行政文書から、文法や漢字などを整理した。 (内容・構成) ①自己紹介、家族の紹介、住所の書き方 ②病院、病気 ③動詞(グループ分け、活用)／形容詞(イ・ナの別、結合、否定形) ④公的文書「やさしい日本語」版各種を日本語教材として使う(語彙、表現、漢字、知識など) ⑤その他		
実施期間	令和2年5月16日～令和3年3月19日	作成教材の 想定授業時間	1回 2時間 × 30 回 = 60 時間
対象者	定住外国人	教材の頁数	216 ページ
カリキュラム案活用	カリキュラム案とガイドブックにて本取組の趣旨を踏まえて、教材を独自に作成した。		
事業終了後の教材活用	2020年度の教室活動で活用済み、さらに当法人が運営するSNS上の日本語学習サイト「FNN(フィリピンナガイサ日本語コミュニティ)」において、コロナ禍で外出できない学習者に向けても配信した。2021年度以降も、同様に使用予定である。		
成果物のリンク先	http://filipinonagkaisa.org/		

どうしましたか
Douoshimashitaka?



ことば(KOTORA)	ローマ字 (ROMA-JI)	メモ (MEMO)
ねつが あります		
はなみずが できます		
せきが できます		
のどが いたいです		



大中小
中
強中弱

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

- ①定住フィリピン人がコミュニティ内に埋没するのを防ぐこと。
- ②公的機関、企業、住民等に連携を働きかけ、多様化している外国人の来日背景や在留資格などの状況を、地域全体で理解すること。
- ③地域に暮らすフィリピン人が実生活で困らないよう、「日本社会の入口となり関わりの裾野を広げること」「日本社会の中でキャリアアップを図り、安定して生活すること」を目指せるような教室を設置し、事業を遂行すること。
- ④日本語がわからないことで生活に支障が出るようなケースについて対応できる、地域で活躍できるバイリンガル人材を支えること。(国籍問わず)

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・コロナ禍において、行政から「やさしい日本語版」での情報提供が多くなされたことや、またそういった書面が当法人に多く届けられた。試しにこうした書面を講師が音読してみたところ、聞き取るのは容易である人が多い一方、自力で読むとまだ時間がかかる(読めないわけではない)。これが自力で読む際にある程度まとまった意味のある塊として音を認識すると、その意味は理解できた(一度目は一つずつの文字に対する音を拾うのに精いっぱいだが、もう一度読み直すことを促すと、一度目よりもスムーズに音読でき、これにより「言葉としての意味を理解する」余裕が生まれるようだった)。今後、「やさしい日本語」版の行政文書は、意味の塊を取れる程度のスピードで読む練習に活かせるような教材だということが分かった。「やさしい日本語」版での行政文書は国籍によるかもしれないが、少なくともフィリピン人は英語やタガログ語があれば足りてしまい彼らの目に留まることはほとんどない。しかし、それだと情報発信に対する反響が見えづらい上、日本語使用頻度が下がってしまう。各文書の「やさしい日本語」版の普及はこうした難しさの改善を図り、今一度、地域日本語教室が本来持つ「大切な情報を収集できる場づくり」「日本人住民もこの教室に参加する意義」を融合できた。次年度以降は積極的に教材として取り上げていく。

・人材育成講座ではオンラインを活用することにより、他地域からも大変多くの方にご参加いただけた。地域全体や教室活動における課題や気づいたことを共有したり、勉強できる仲間が増え、本取組が波及する土台を作ることができた。

・日本語学習教材については、教室で使用したものを動画配信でも再利用できた。対面の授業での使用だけでなく、何度でも使える教材ができたことがよかった。作成した教材はフォントやレイアウト、イラストの挿入など、わかりやすさに配慮した。教材を作るうえでも「やさしい日本語」を取り入れた。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

・事前に本事業の担当者は、カリキュラム案が掲げる目的・目標を共有した。

・「生活上の行為の事例」から、緊急性の高いものや命に係わる内容を重点的に取り上げた。

・各回のクラスの目標では、「生活上の行為の事例」と重なるテーマについては、能力記述の欄を参考にその日の目標を据えた。

・当法人では、「生活上の行為の事例」にある「消費活動を行う」は取り上げていない。当事者によれば、物品購入における金銭授受は母国と同じである上、言葉が話せなくて困ることはあまりないとのことで、指導内容から外している。ただし、スマホ決済や様々なサービスの利用方法についてはニーズがあるので指導項目に入れている。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

(日本語教室、教材作成)ゲスト講師を務めていただいた。また、教材作成で資料提供をしていただいたりアドバイスを頂戴した。
おもな連携先: 浜松市、浜松国際交流協会、静岡県

(人材育成) 広報・参加という点で多くの機関の協力が得られた。
おもな連携先: 浜松市、浜松国際交流協会、浜松市教育委員会、静岡県、やさしい日本語ツーリズム研究会など

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

(日本語教室)
・当法人が主催する別事業の家族・知人、本事業受講経験者、当法人スタッフによるクチコミ協力が得られた。

(人材育成)
・緊急事態宣言期間に出演した「やさしい日本語ツーリズム研究会」の「やさ日」ライブ視聴者が、その後も当法人の取組に関心を寄せてくれて参加につながった

・当法人がこれまで受託した文化庁事業の公開講座のリピーターと、その人々によるクチコミ

・SNSでの配信による拡散。浜松市以外の自治体・国際交流協会職員の目にも留まり、さらなる拡散と参加が得られた。

・浜松市役所、浜松国際交流協会から、全ての講座において周知協力が得られた(職員内、市民向けともに)

・コロナ禍ということでオンライン配信を実施したが、結果的に想定を上回る人数の方々にご参加いただいた。

・受講した人のクチコミにより、動画配信の要望が聞かれた。それぞれの講師と相談し、了解を得た講座についてはコンテンツを当法人のホームページに掲載した。

(教材作成)
・当法人が運営するSNS上の日本語学習サイト「FNN(フィリピンナガイサ日本語コミュニティ)」において配信した。これにより、教室参加している学習者にとって復習になったばかりでなく、教室に来られない学習者にとっても勉強できたという声が聞かれた。

(6) 改善点、今後の課題について

・コロナ禍ということもあり、交流や課外活動を積極的に進めることができなかった。新しい生活様式の中でできる「交流」の在り方を模索していく。

・当法人は活動の中から、仮説として「生活者としての外国人」が耳で覚えた音としての日本語と、日本語の文字の特性が結びつくような指導ができると、当事者の生活上の不便と不快を取り除くことができるのではないかと考えている。こうした対象の方々向けの指導が確立されると、全国にいる多くの滞在年数の長い外国人の助けになると思われる。本事業では生活情報と日本語教育を組み合わせる形で実施してきたが、近年、公的機関が出す文書の「やさしい日本語」版は日本語教材として最適だと考える。一つ一つの文字を拾い、読み上げ、音としてつながるとサバイバルで身に付けた日本語力で理解できる内容になるはずである。この点に着目し、活動の中に取り入れて行きたいと考えている。

・教材配信については、「勉強」を前面に出すと閲覧者が伸び悩む。教室活動を撮影し、動画配信するといったほうが気軽に一体感があって視聴に結びつきやすい。次年度以降はこの点を考慮して本事業に盛り込むことにする。

(7) その他参考資料

人材育成講座チラシ
人材育成講座受講者アンケート
運営委員会議事録
新聞記事
HIGE NEWS表紙(2月14日人材育成講座について掲載)
オリンピック・パラリンピック多言語対応協議会ポータルサイト(8月29日人材育成講座について掲載)
途上国や国際協力・開発をテーマとするNPOメディア「ganas」(オンラインについて掲載)